

12月17日 福島高1年生がキャリア座談会で職業理解を深める

進路選択の参考にするため、市内で働く卒業生らの話を聞くキャリア座談会が福島高校で開催されました。同校1年生46人が参加。生徒たちは6、7人ずつのグループに分かれて、小売業、自営業から7人の講師に働く意義などを学びました。四季彩館ほりぐち取締役副社長の堀口一樹さんは、現在の仕事に就くまでの経歴や「お客さまの笑顔が一番うれしい」と仕事のやりがいなどを話し、「勉強に限らず今自分のやりたいことを一生懸命頑張ってください」と励ましの言葉を送りました。1年生の田中夕音さんは「今やりたいことを精一杯頑張り、美容師の夢をかなえていきたい」と話していました。



生徒たちに働く意義などを話す堀口さん

12月18日 串間の情報発信充実に向け本市と博多大丸が連携



認定を受けた株式会社博多大丸の村本光児取締役（中央）と九州探検隊の角田英一隊員（右）

本市は福岡県で百貨店を運営する株式会社博多大丸を「情報発信アンバサダー」として認定しました。同社は創業65周年事業として2018年から、九州・沖縄の特産品や文化などを発掘して情報発信を行い、九州全体の活性化を目指す「九州探検隊プロジェクト」を展開しており、九州・沖縄管内全119市との認定を目指しています。市役所で行われた認定式では、同社の村本光児取締役が「お互い知恵を出し合いながら力をあわせて盛り上げていきたい」とあいさつされました。今後同社のホームページや店頭イベントなどを通じてPRを行っていきます。

新型コロナウイルス感染症が感染拡大している中、市民の皆さんが安心して過ごせるようにと串間中学校がシトラスリボンを制作しました。同感染症に感染した方や医療従事者などへの差別、偏見をなくし寄り添う気持ちを表現しようと愛媛県から全国に広まった「シトラスリボンプロジェクト」の一環で、昨年の11月から全校生徒で約500個を制作。市役所で行われた贈呈式では同校生徒会から市長へリボンを贈呈しました。生徒会長の谷口悠羽(ゆう)さんは「シトラスリボンで少しでも心の支えになってもらえたらうれしい」と話していました。

12月24日 誰もが笑顔で暮らせるまちへ串間中がシトラスリボンを制作



シトラスリボンの3つの輪は「地域、家庭、職場（学校）」を意味しています。

12月15日 秋山小6年生が魅力的なまちづくりについて提言



市職員や市内各学校の教職員など約60名に提案をする児童

秋山小学校の6年生3名が、中心市街地への集客に向けたまちづくりについての発表会を市役所で行いました。地元の活性化策などを学ぶ「くしま学」の一環で昨年の6月から学習を開始。山内美奈さんは「書店」、山崎美砂さんは「特産物を使用したスイーツ」、山下絢音さんは「イルミネーション」についてそれぞれ研究を行ってきました。発表会では「菓子店や勉強スペースなどを併設した誰でも訪れられる書店の開業」や「道の駅に四季をイメージしたイルミネーションなどの設置」、「甘藷を使ったタルトの開発」など具体的に提案をしていました。発表後は実際に児童が作成したスイーツの振る舞いもありました。

12月15日 地域防災力の向上へ本市と防災士団体が協定締結

地域の防災力を高めようと、本市と宮崎県防災士ネットワーク串間支部は、相互協力に関する協定を締結しました。県内において自治体と支部の協定締結は初となります。連携して避難訓練や啓発活動を行うほか、災害時には市の避難所運営や被災者支援などにも協力いただきます。市役所で行われた調印式では、市長と同支部の隈田原瞳支部長が協定書に調印しました。隈田原支部長は「積極的に協力していき、市民の防災意識をさらに高めていきたい」と話していました。



協定を締結した隈田原支部長（中央）と市長

12月17日 福島高卒業生らが応援のぼり旗を制作



潮会が制作した福島高校を応援するのぼり旗

市民に福島高校への関心を高めてもらおうと、同校卒業生で構成する「潮会」が応援のぼり旗を制作しました。会員らが母校のために何かできないかと1年ほど前から話し合いを重ね、さまざまな行事で使えて学校の宣伝ができるのぼり旗の制作を発案。その後市内の経済団体などで構成する「福島高校を育てる市民の会」のメンバーに呼び掛けて旗を20本作りました。旗は同校周辺で定期的に掲げられるほか、生徒による地域創生学の研究発表会などの会場でも設置されます。潮会会長の甲斐正和さんは「多くの市民に見てもらい、福島高生が頑張っていることを知ってもらえたらうれしい」と話していました。